

高等学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

家庭部会

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、平成22年度から新たに幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員を対象に教育研究員を設置し、平成17年度まで50期にわたって行ってきた教育研究員事業を6年ぶりに復活させました。この事業は、教育研究活動の中核となる教員を養成することによって、東京都全体の教育の質を向上させることを目的としています。各教育研究員には1年間の研究活動を通して組織的な研究活動の在り方を身に付け、これからの東京都の教育研究活動の推進者となることが期待されています。

平成20年3月に告示された幼稚園・小学校・中学校学習指導要領に続き、平成21年3月に高等学校学習指導要領が告示され、全ての校種が新しい学習指導要領の本格実施あるいは本格実施に向けての移行期間に入りました。このことを受けて、平成22年度の教育研究員の共通テーマは「新学習指導要領に対応した授業の在り方について」とし、研究の柱が改訂された学習指導要領であることを明確にしました。また、今回の学習指導要領改訂の大きなポイントの一つである「言語活動の充実」については、全ての校種・部会の研究内容の中で取り組むこととしました。

これまで都教育委員会は、都立高校教育の充実・発展のために「生徒による授業評価」を活用した授業改善の促進や、進学指導重点校等での進学指導に関する協議会の開催など、生徒の学力を向上させるための取組を行ってきました。また、平成22年度からは、進学指導のマネージメントの定着を図る目的で、進学校における外部機関による進学指導診断を実施したり、学力向上に向けて実践的な研究を行う学校を指定し、高校入試結果の分析、学力向上推進プランの作成、学力調査問題の開発・実施・分析を通して学習指導の改善と充実を図ったりしてきました。

そこで、本年度高等学校の各部会においては、全校にわたる共通テーマに加え、「確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究」を高等学校全体のテーマとして設け、各部会において確かな学力を定義づけた上で、それぞれの研究主題を設定し、研究開発に取り組んできました。

この1年間、高等学校の全15部会、70名の教育研究員が、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術（音楽）、外国語、家庭、情報、農業、工業、商業、特別活動及び総合的な学習の時間の各教科等について、研究主題に基づいて研究を行い、協議を重ね、検証した内容を本報告書にまとめました。

各学校におかれましては、本報告書を有効に活用し、学力向上に向けた教科等の指導方法・内容の改善と充実に取り組んでいただくようお願いします。

平成23年3月

指導部高等学校教育指導課長

宮本 久也

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究の内容	3
VI	研究の成果	16
VII	今後の課題	16

研究主題	「生活を主体的に創造する能力と人となりが共に生きる力を育む家庭科教育について」
-------------	--

I 研究主題設定の理由

新学習指導要領において高等学校家庭科では、習得した知識や技術を活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視している。また、自己及び家族の発達と生活の営みに必要な知識と技術を、小学校家庭科、中学校技術・家庭科の学習の上に積み重ねて習得させるとともに社会との関わりの中で営まれる家庭生活や地域の生活への関心を高め、生涯を見通して生活を創造する主体としての視点が重要となっている。

平成19年に国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部が実施した「特定の課題に関する調査（技術・家庭）」の結果をみると、食生活に関する実技調査では、野菜などを効率的で安全に切ることや、料理に適した切り方を考えることなどに課題がみられ、衣生活に関する実技調査では、衣服の補修・製作の基礎的な技能として、まつり縫いを適切に行うことに課題がみられた。これらの改善の方策として、実際の調理実習においても、適切な切り方を考えさせる指導の工夫やまつり縫いなどの基礎的な技能の習得とともに、実生活に必要な補修の場面に応じた対応を考えさせる指導の工夫を行うことがあげられている。質問紙調査では、「家庭分野の学習は大切だ、普段の生活に役立つ」と回答した生徒の割合は約90%であったという。しかし、高校生の生活の実態は家庭生活において家族と関わりながら家事労働を行う機会が減り、学習したことを考えて生活に生かし、より良い生活に向けて活用することが少ない。

これらのことを踏まえ、生活に必要な知識と技術を習得させるとともに自己や家族、地域の課題を解決するために、学んだことを活用し、社会の一員として主体的に行動する能力と実践的な態度の育成を図ることが必要であると考え「生活を主体的に創造する能力と人となりが共に生きる力を育む家庭科教育について」を研究主題と設定して授業実践に取り組むこととした。

II 研究の視点

本年度の高校部会全体のテーマは「確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究」である。

家庭科における学力とは、①生活に必要な知識・技術を習得し、それを自己や家族、地域の課題解決のために活用し、生活を科学的に探究しようとする態度②生涯を見通す視点を持ち、社会の一員として主体的に行動するための思考力・判断力・表現力であると捉えた。

このことを踏まえながら、本研究では、思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実を図る授業の実践研究を目的として取り組んだ。また、習得した知識や技術を課題解決のために活用したり、学習後の学びに生かしたりするよう学習活動の工夫を行った。

生徒の思考力・判断力・表現力を高め、主体的に学習活動に取り組み、課題解決する態度を育成するためには、小学校・中学校で習得した知識や技術を生かし、さらに高等学校で学習したことを積み重ね、それらの知識や技術を総合的に活用する学習活動を取り入れることが重要である。

Ⅲ 研究の仮説

生活に必要な知識と技術を習得させ、自己や家族、地域の課題を解決するために、学んだことを活用し、社会の一員として主体的に行動する能力と実践的な態度の育成を図るためには、以下の学習活動を実践することが有効な手立てであると考えた。

- 1 生活における課題解決に向けて、習得した知識と技術を活用し改善する視点を深めることが必要であることから、自らの生活を見つめる課題を与え、自己の生活の実態を把握し、どのように改善すればより良い方向に向かうのか、考えてまとめさせる学習活動を行う。
- 2 自らの考えを他者と共有することで、多様な考え方があることに気づき、そのことが自己の考え方を広げ実践しようとする行動力につながると捉え、授業の中で自分の思いや考えを発表させる学習活動を行う。自分の考えや思いを他者に伝えるためにはどうしたらよいかを考え、方法を工夫することで他者や社会との関わりに関する理解が深まると考えたためである。

Ⅳ 研究の方法

- 1 食生活では、自己の食生活の実態を知り、自らより良い食生活が実践できるように、ホームプロジェクトとして3日間の食事調査を行い、それぞれの食事の実態について、栄養面、摂取した食品のバランスについてまとめさせた。班ごとにホームプロジェクトの取組を検討し、事例を一つ選択させ、どのように改善すればより良い食事になるか議論を重ね、問題点の把握、改善した食事の内容について発表を行った。また、日常の食生活の行動について、アンケートを行いその実態を把握した。

研究校 A 校は、学習のまとめとして実践し、研究校 B 校は、学習前の導入として実践した。学習前と学習後に行うことで、生徒にどのような変容や学習の効果があるかを検証した。

- 2 家庭経済では、社会の変化に伴う消費行動や流通の多様化の現状と課題を認識させるために、個別に事前課題を出し、それをグループでまとめて発表をすることにより、言語活動の充実を図った。また、ゲストティーチャーを招き、消費者信用に関わる様々なリスクについての話を伺うことで、消費者として生涯を見通した適切な判断ができるように取り組んだ。
- 3 保育では、親になるということ人を人の一生の中で捉え、地域と関わって子育てが進められるよう、保育体験学習で実施する「絵本の朗読」の学習会、交流活動で使用する「ことばカードの被服製作」及び地域の子育て支援について、グループ学習を通して、調査・研究、まとめ、発表を行い理解を深めた。また、全国各地で子育てに関する実践的活動の実績のあるゲストティーチャーを招き、男性の視点に立った子育ての話を聞いて、社会全体における子育てに関する現状と課題を理解することで学習の発展になる学びを深めた。
- 4 住生活では、ライフステージによる住まい方と住居の条件を考え、住生活を主体的に営むことができるように、設定した家族構成やライフスタイルに応じた住居について考え発表する授業を行った。教材として住宅間取り作成ソフトを使用し、生徒が短時間で意欲的に取り組めるように工夫した。それぞれの発表から、ライフステージごとの住まいの在り方について課題を把握し、生涯を見通した住生活について理解を深めた。

V 研究の内容

1 研究構想

全体テーマ **新学習指導要領に対応した授業の在り方について**

高校部会テーマ **確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究**

教科等の新学習指導要領のポイント

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活に必要な知識と技術を習得させる。
- ・男女が協力して、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

教科等における確かな学力とは

- ・生活に必要な知識・技術を習得し、それを自己や家族、地域の課題解決のために活用し、生活を科学的に探求しようとする態度
- ・生涯を見通す視点を持ち、社会の一員として主体的に行動するための思考力・判断力・表現力

現状と課題

- <現状> ・生活の中で実践的・体験的な経験が乏しく、人や社会と関わる力が低下している。また、自ら考えて行動する意識が欠けている。
- <課題> ・家庭生活や地域との関わりの中で、生徒自ら課題を設定し、それを解決する能力（思考力・判断力・表現力）を身に付けさせることのできる授業を展開する。

家庭部会主題

生活を主体的に創造する能力と人とつながり共に生きる力を育む家庭科教育について

仮説

- ・授業において、自らの生活を見つめる課題を与え、考えさせることで、家庭や地域全体の在り方や問題点を見付けだし、改善しようと行動する。
- ・発表学習や地域交流を通し、自分の考えや思いを他者に伝えるためにはどうしたらよいかを考え、方法を工夫することで、他者や社会との関わりに関する理解が深まる。

具体的方策

- ・衣食住、保育や消費生活などに関する知識や技術を身に付けさせるために、体験的授業を多く取り入れ、感じとったことを表現させる。
- ・ホームプロジェクトや課題解決学習等を通して家族や地域の生活課題を主体的に解決し、生活の充実・向上を図る。
- ・発表学習及び相互評価を実践することで、自己表現力を高め、他者に対する理解を深める。

2 新学習指導要領に応じた年間授業計画【家庭総合 4単位】

新学習指導要領の学習内容に基づき、家庭総合における知識及び技能の習得内容と関連した言語活動の充実を図った学習形態をまとめた。指導計画の配慮事項として、総授業時数の10分の5以上の実験・実習を取り入れ、実験・実習には、調査・研究、観察・見学、乳幼児や高齢者との触れ合い及び交流活動などの学習活動を含んでいる。

学習内容	時間	主な基礎的・基本的な知識及び技能の習得内容	主な学習形態と言語活動の充実例
(1) 人の一生と家族・家庭 ア 人の一生と青年期の自立 (ア) 人の一生と発達課題 (イ) 青年期の課題 (ウ) 生活の自立を目指す上での意思決定 イ 家族・家庭と社会 (ア) 家庭の機能と家族関係 (イ) 家庭生活と社会	8 4	ア①各ライフステージの特徴と課題 ②青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力 イ①家族の特徴や家庭の機能について歴史的、文化的、社会的変化との関連 ②家族関係、家族・家庭を支える労働、法律、福祉と意義、社会との関わりを通して男女が協力して家庭を築くことの意義と重要性	ア① W ：各ライフステージに沿って自分の目標を書き込む イ① W&P ：テレビ、新聞、本等でユニークと思った家族を探して、グループで意見交換する ② Re ：生活時間調査
(2) 子供や高齢者とのかかわりと福祉 ア 子供の発達と保育・福祉 (ア) 子供とかかわる (イ) 子供の発達と生活 (ウ) 親の役割と子育て支援 (エ) 子供の権利と福祉 イ 高齢者の生活と福祉 (ア) 高齢者とかかわる (イ) 高齢者の生活と課題 (ウ) 人間の尊厳とケア (エ) 高齢社会の現状と社会福祉 ウ 共生社会における家庭や地域	1 2 1 2 2	ア①子供の発達と生活 ②親の役割と子育て支援 ③子供の権利と福祉 ④子供との触れ合いと関わり イ①高齢期の特徴と生活 ②高齢者の尊厳とケアの考え方 ③高齢社会の現状と社会福祉 ④高齢者との触れ合い	ア① V&L ：胎児の発達と妊婦体験、胎児模型や視聴覚教材の活用 ④ M&L ：児童文化財の作成、練習及び保育体験実習 イ① L&P ：インスタントシニア体験をし、感想・考察を発表する S&P ：家庭内事故について調べ、発表する ② L ：救急法についての実習 ④ L ：高齢者から学ぶ
(3) 生活における経済の計画と消費 ア 生活における経済の計画 (ア) 家計と経済 (イ) 資金管理とリスク (ウ) キャッシュレス社会とその課題 イ 消費行動と意思決定 (ア) 消費者の意思決定とその重要性 (イ) 生活情報の収集・選択と活用	6 4	ア①家計と経済社会の関わり ②資金管理とリスク管理 ③カードの利便性と問題点 ④多重債務問題 イ①多様化する流通や販売方法 ②生活情報の収集や選択	ア① W ：求人票の読み取り L ：一人暮らしの家計簿 ② L ：買い物シミュレーション ③ W&P ：クレジットカードの利点と問題点、支払額の計算 ④ Re&W ：ゲストティーチャー、多重債務の現状 イ① S&P ：店頭販売とネット通販、カタログショッピング等の商品比較をし、購入方法を検討

学習内容	時間	主な基礎的・基本的な知識及び技能の習得内容	主な学習形態と言語活動の充実例
ウ 消費者の権利と責任 (ア) 社会の変化と消費生活 (イ) 消費者問題の現状と課題 (ウ) 消費者の権利と自立支援	6	ウ①消費者問題と消費者としての自立 ②消費者の権利と役割	ウ①R: 悪質商法・架空請求・ クーリングオフ ②W: 消費者庁や消費者行政 について
(4) 生活の科学と環境 ア 食生活の科学と文化 (ア) 人の一生と食事 (イ) 食生活の自立と調理 (ウ) 食生活の文化 (エ) 食生活と環境 イ 衣生活の科学と文化 (ア) 人の一生と被服 (イ) 衣生活の自立と管理 (ウ) 衣生活の文化と製作 (エ) 衣生活と環境 ウ 住生活の科学と文化 (ア) 人の一生と住居 (イ) 住生活の計画と選択 (ウ) 住生活の文化 (エ) 住生活と環境 エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立 (ア) 持続可能な消費 (イ) 環境保全に向けたライフスタイルの確立	40 22 12 6	ア①ライフステージの食生活の特徴 ②栄養、食品、調理及び食品衛生を科学的に理解 ③食生活の文化的側面 ④調理実習を通しての食生活の自立 イ①被服の機能、着装、被服管理と被服材料や被服の構成 ②各ライフステージの衣生活の特徴や課題 ③被服製作 ④衣生活の文化と環境 ウ①安全で快適な住居 ②家族が生活する場としての住居の機能 ③住生活の文化と環境 ④住生活の現状と住政策や法規 エ①環境保全に向けたライフスタイルの確立	ア①R e & P: 食事調査 ②E & P: 調理実験 ③L & W: 食膳形式、郷土食、 地産地消、会食、マナー ④L & R: 献立の完成 (不足した食品を補う) イ①E & W: 燃焼実験 ②W: TPOに応じた着装 ③L: 被服製作、取り扱い 絵表示を調べラベル製作 ④L: ゆかたの着付け ウ①L & P: 災害に対応した住宅 ②W & P: 住宅広告を活用した住宅選び ③L & P: 日本式住宅の体験 (畳、床の間等)、環境共生住宅 エ①W & P: 購買行動計画
(5) 生涯の生活設計 ア 生活資源とその活用 イ ライフスタイルと生活設計	4	①家庭科の学習を通して考える生活設計	イ①W: 奨学金の返済シミュレーション、大学生の就職活動エントリーシートの記入
(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	2	①問題解決能力と実践的態度の育成・社会参画や勤労意欲の高揚	

* 主な学習形態と言語活動の充実例の中のアルファベットの表記は、以下の意味を示す。

W・・・Work (作業学習: ワークシート)	P・・・Presentation (発表)
E・・・Experiment (実験)	V・・・Visual (視聴覚教材)
L・・・Laboratory (実習)	M・・・Manufacture (製作)
S・・・Study (調べ学習)	Re・・・Research (調査・研究)
R・・・Role-Playing (ロールプレイ)	

3 思考力・判断力・表現力等を育む学習活動例

家庭科では、思考力・判断力・表現力等を高める学習活動として次のような学習活動の充実を図ることが求められている。

- ① 子供や高齢者など様々な人々と触れ合い、他者と関わる力を高める活動
- ② 衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動
- ③ 判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探求したりする活動

また、中央教育審議会では、平成20年1月「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」の中で、思考力・判断力・表現力等を育むためには、以下の表に示す1から6までの学習活動が重要であるとし、それぞれの項目に対応した家庭科の学習活動の内容をまとめてみた。

1 体験から感じ取ったことを表現する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書館との連携による絵本の読み聞かせ ○ 子供の視野体験、レポート ○ シニア体験、レポート ○ 調理実習に関する内容と日常の食生活に関連する事項の発表 ○ テーマ（地産地消等）に基づき、グループで弁当の献立作成、実習、発表
2 事実を正確に理解し伝達する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族に関する法律等の調べ学習、発表 ○ 児童虐待の実態、児童保護の取り組み等の調べ学習（統計、新聞等の活用）、発表 ○ 保育園や幼稚園、高齢者施設での体験学習について、それぞれの様子を報告 ○ 高齢者福祉に関する法律等の調べ学習、発表 ○ 繊維の燃焼実験・レポート
3 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の発達段階に合わせた遊びについての班別調べ学習、発表 ○ 修学旅行に適した服装（気候、温度、行動、アクシデント等を考慮した服）の選定 ○ 悪質商法の被害を防止するためのロールプレイング（シナリオ作成、発表） ○ クーリング・オフの書面の書き方 ○ 集合住宅でのトラブル回避のためのマニュアル作成
4 情報を分析・評価し、論述する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の家庭内事故についての調べ学習 ○ 子供の家庭内事故についての調べ学習 ○ 児童虐待の新聞記事から原因を推察、防止策の論述 ○ 消費者基本法や消費者庁の実態に関する調べ学習、発表 ○ 世界の食料事情、日本の食料自給率、フードマイレージ、地産地消等についての班別調べ学習、発表
5 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童文化財の製作と活用（幼稚園・保育園等での保育体験活動の実践）、反省（評価） ○ 環境に配慮した生活について考え、実践、1か月後の自らの取り組みを評価 ○ 指定の間取りと家族構成から、課題を見付け、改善したリフォーム案を作図、発表 ○ ホームプロジェクトの実践、学校家庭クラブ活動の取組
6 互いの考え方を伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 性別役割分業、夫婦別姓等について、ディベート ○ 法律婚、事実婚について、それぞれのメリット・デメリットを討論 ○ 親になることについて、自らの考えを発表 ○ 高齢者の身体的変化、一人暮らし高齢者、悪質商法被害、日本の高齢化等、高齢者を取り巻く課題について発表、どのような支援ができるかを討論 ○ 家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活する社会をつくるためにどのようにしたら良いか討論

4 実践事例

(1) 実践事例 I

科目名	家庭総合	学年	2 学年
-----	------	----	------

1 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

単元名：食生活の生活と科学 （ア）人の一生と食事（イ）食生活の自立と調理
 家族の栄養と献立 ～夏休みの課題を分析してみよう～

教科書：「新家庭総合 生活の創造をめざして」大修館書店

副教材：「新カラーガイド 食品成分表 改訂版」大修館書店

2 単元（題材）の指導目標

- ・ 日常の食生活を振り返り、より良い食事について考える。
- ・ 作った食事について評価・分析した結果を自分や家族の食生活に生かす。
- ・ 発表を通して、食生活の自立へ向けて実践できる態度を養う。

3 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	①自分や家族の食生活に関心を持ち、日常の食生活において主体的に取り組もうとしている。 ②1日の献立が自分や家族に必要な栄養を満たせるか工夫し実践しようとしている。	①人間と食物との関わり、食事の意義について考えている。 ②食生活診断から栄養素の過不足について適切に判断できる。 ③栄養バランスの良い食事について思考を深め、実践できる。	①自分や家族の食生活診断ができる。 ②栄養の過不足から起こる問題点を指摘できる。 ③栄養や食品の特性を考えた適切な献立作成と調理ができる。	①食生活と健康との関わりについて理解している。 ②栄養と食品、その調理性に関する知識を理解している。 ③適切な献立作成、調理や配膳に関する知識を身に付けている。

4 単元（題材）の指導計画（13時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
3	・食生活をみつめる(1)	・「食べる」ということはどういうことか考える。	ア－① イ－① エ－① [ワークシート] [発表]
		・VTR 『食&ユアフューチャー』を視聴する。 ・欠食の問題点やBMI 値など、ダイエットや過食の問題点について理解する。	エ－①② ウ－② [ワークシート] [発表]
4	・食生活の成り立ちと現代の食生活	・気候風土と食生活について理解する。 ・現代の食生活の問題点を知る。 ・食事記録例から事例について現代の高校生の食生活における問題点を考える。	ア－①② イ－①②③ ウ－② エ－①②③ [ワークシート] [発表] [観察]
6	・食生活をみつめる(2)	・班内で課題を発表し、班ごとの傾向や特徴について評価する。	ア－①② イ－②③ ウ－①②③ エ－②③ [ワークシート] [観察]
		・発表資料作成 ・発表原稿の作成、発表練習	イ－②③ ウ－①② エ－①②③ [ワークシート] [観察]
		・発表・評価（本時）	ア－② イ－②③ ウ－①②③ エ－①②③ [ワークシート] [発表]

5 本時（全13時間中の12、13時間目）

（1） 本時の目標

- ア 食品群別摂取量のめやすから自分や家族の食生活の課題を理解する。
- イ 自らの食生活を振り返ることで現代の食生活の傾向と問題点について考えるとともに、毎日の食事が健康と関わっていることを理解する。
- ウ 課題内容を効率的にまとめて発表し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

（2） 本時の展開（2時間）

程 過	間 時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標の確認をする。 ・本時の予定、ICT 機器の使い方について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布する。 ・班毎に座席に着くよう指示する。 ・評価表を配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を理解しているか。 (ア) [ワークシート]
展 開	40分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を行う。 1 班 3分～5分で発表する。 ①班員の食事内容 ②食事からわかったこと (資料) ③改善点 ④改善後の食事(写真) ⑤さらに改善すべき点 ⑥感想 以上を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班員全員で発表させる。 ・制限時間を守るよう指導する。 ・他の班は発表内容をよく聴き、評価を行うよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく発表することができたか。(イ) ・発表の時間は適切だったか。 (ウ) ・発表の内容は本時の目標を達成していたか。(イ・ウ・エ) ・他の発表者に対する適切な評価ができたか。(イ・ウ・エ) [発表] [観察] [ワークシート]
	40分	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表に関する評価・検証を行う。 ・発表を行っての感想・他の班からの評価を受けてわかったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の評価について発表させる。 ①声の大きさ ②発表時間 ③資料・内容の工夫 ④課題を適切に捉えているか ⑤改善献立の評価・分析ができたか ⑥今後の食生活に生かせるか ・ワークシートに感想等を記入するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価表を基に発表内容を相手に十分に伝えることができたか。 (イ・ウ) ・自分の発表を振り返り、他からの評価を生かすことができたか。 (イ・ウ・エ) [発表] [ワークシート] [相互評価表・自己評価表]
ま と め	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・講評を聞いてまとめる。 ・次週の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容について講評を行う。 ・講評後、学習の成果と感想についてワークシートに記入するよう指示する。 ・次週の学習内容を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講評を受けて今後の食生活に生かそうとしているか。(ア) [ワークシート]

6 本時の振り返り

- (1) この授業をA校で実施し、生徒の取組状況から改善を加えてB校でも実施した。A校では、より良い食事・食生活とは何かをテーマとして現代の食生活の問題点等の授業を行った上で、ホームプロジェクトとして「3日間の食事調査」「食事調査結果から課題を見出す」「改善献立の立案・実習」を実践したが、授業内容を生かして改善につなげることができた生徒は少なかった。食生活に関するアンケートを実施し、その結果から食習慣や食経験の豊かさと立案した献立の栄養価を比較してみると、7割程度の相関が見られ、「良

い食事」という観点が生徒の食習慣や食経験に大きく影響していることがわかった。

生徒は、課題を示されたことで、課題を解決しようという意欲が芽生え、発表することで改めて課題解決意識をもつことができたと考える。その後の調理実習の授業においては、生徒の多くが主菜のほか副菜や副々菜を整えようと工夫し、栄養や味、調理法のバランスについても考えることができるようになった。学習のまとめの段階としてこの課題学習に取り組むことで実生活に生かそうとする意欲や姿勢を身に付けることができたと考える。

学習発表評価表を他の発表学習の際にも使用できるように工夫して作成したが、評価基準が明確ではなく、本時のねらいが生徒に伝わりにくかったようである。また、発表の評価結果については、発表の手法や説明のわかりやすさ等、発表の仕方に評価の視点が重く置かれたように思う。これらの反省を生かし、評価基準は発表の声の大きさ・時間・資料の見やすさ等、毎回の学習発表に共通する評価規準と学習のねらいを観点として示す内容に改善した。改善した評価表を使用することにより、発表の評価規準やねらいが明確になり、発表内容も学習のねらいに合致したものが多くなった。さらに、学習の目標を満たしている発表が生徒の評価表において評価点が高くなるという結果も見られるようになり、指導と評価の一体化を図ることができたと考える。限られた授業時間の中で効率的な学習の成果を表すためには、様々な点に配慮した教材や課題設定、評価規準を作成する必要があると実感した。

- (2) B校では、現代の食生活の問題点を食分野の導入時に取り組む学習として行った。ホームプロジェクトとして、A校と同じ課題を与え、「中学校までに学んできた知識を基に、良いと思う食事を考えよう」という条件をつけて課題に取り組ませた。結果は、献立として「良い」と思われる食事を提案した生徒が多く、野菜が多くとり入れられ、品数も多い食事で「バランスのとれた献立」の感覚を多くの生徒がもっていた。食分野導入時での取り組みにもかかわらず、良い献立の提案ができるのは、家庭での食習慣や食経験の影響が大きいと考える。これはアンケート結果にも表れており、朝食の欠食率が3%、昼食は親の手作り弁当を持参している生徒の割合が93%を超えるB校の現状が、生徒の食習慣に大きく関わっていると推測される。

事前課題を出し、それを基に発表学習を行うことで、班員や他の班の意見を聞き、互いに影響し合って発表内容や発表方法が改善されていった。A校の取組の反省を受けて、学習発表評価表の評価規準を、プレゼンテーション用の原稿やスライドを作っている早い段階で提示し、本時のねらいをはっきりさせたことで、発表も評価規準を意識したわかりやすい内容となった。また、学習の目標を満たしている発表が生徒の評価表において評価点が高くなるという傾向もA校同様に見られた。

この取組を食分野の導入時に取り入れた結果、その後の栄養素や食品の特徴についての授業が「献立」や「食事のとり方」を中心として、効率的に進められるようになった。また、生徒はグループ学習に慣れたため、調理実習での役割分担が円滑に進み、コミュニケーションが深まり、意思疎通が上手に図れるようになるなどの効果が現れた。発表学習は「まとめ」の学習と捉えがちだが、導入時に取り入れることで、生徒は先を見通しながら学習に取り組む、様々な学習効果を生み出すことを実感した。

(2) 実践事例Ⅱ

科目名	家庭基礎	学年	2 学年
-----	------	----	------

1 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

単元名：生活の自立及び消費と環境 エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画

(ア) 消費者問題と消費者の権利 (イ) 生涯の経済計画とリスク管理

教科書：「新家庭基礎 ともに生きる くらしをつくる」教育図書

副教材：「家庭科トータルデータ Ver2.0」教育図書

2 単元（題材）の指導目標

- ・消費行動や流通の多様化の現状と課題を認識させ、様々な消費者問題について理解する。
- ・消費者の権利や消費者信用、多重債務問題を知り、消費者として適切な判断ができる。
- ・グループワークや発表学習を通し、生涯にわたるリスクについての知識を共有する。

3 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	消費生活の現状と消費者の権利・責任について関心を持ち、経済の管理や計画について考える実践的な態度を身に付けている。	家庭経済の現状、社会の変化に伴う消費活動の課題について、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し、創造する能力を身に付けている。	消費生活における実践的・体験的な学習活動を通して、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭経済や消費行動の現状と課題について理解し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 単元（題材）の指導計画（6時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準
1・2	「契約から始まる消費生活」 契約と約束の違いを知る。 ・クーリングオフと消費者保護の法律や制度を知る。 「多様化する販売と支払いの方法を知ろう」その1 ・販売方法の多様化について知り、販売方法の良い点、悪い点を発表する。	・クーリングオフと消費者契約法について理解する。 ・販売方法の変化でおこる課題について考える。	ア、イ エ イ、エ
3・4 (本時)	「多様化する販売と支払いの方法を知ろう」その2 ・様々な支払い方法について特徴を知る。 ・クレジットカードでの支払い方法の違いによる返済をシミュレーションし上手な利用の仕方を考え、発表する。 「消費者信用について知ろう」 ・販売信用(クレジットカード)と消費者金融を知る。 ・多重債務の対処法と注意点について知る。 <ゲストティーチャー> 弁護士より多重債務や、債務整理の現状、自己破産について話を聞く。 ・考えて買うことの大切さを学ぶ。	・キャッシュレス化による先払いや後払いなどの支払い方法について理解する。 ・クレジットカードによる商品購入のしくみ「三者間契約」について理解する。 ・消費者信用の適切な利用の仕方を理解する。 ・1時の学習内容を想起する。	エ、ウ イ エ ア、イ
5・6	「消費者問題と消費者の権利・責任について」 ・消費者問題について調べ、発表する。 ・悪質商法の手口と被害防止方法を確認する。 ・消費者のもつ権利と果たすべき責任について考える。 「消費者問題の解決に向けて」 ・消費者保護のための機関、法律等を具体的に知る。 ・「消費者基本法」における「自立」について考え、発表する。	・消費者問題の定義を理解する。 ・被害にあってしまった時の対処法について理解する。 ・8つの権利、5つの責任について知る。 ・消費者庁や消費者センター、消費者基本法・PL法等の概要を知る。 ・消費者の権利に伴う「責任」について理解する。	イ、エ ア、イ エ

5 本時（全6時間中の3、4時間目）

(1) 本時の目標

ア クレジットカードの上手な利用方法と消費者信用の正しい利用方法について認識させる。

イ 消費者信用や多重債務問題を具体的に知り、消費者として適切な判断ができるようにする。

ウ 発表学習を通して、生涯にわたるリスクについての知識や意見を他者と共有する。

(2) 本時の展開

過程時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	第3時 ワークシート(宿題)の確認 ① 前時に出した課題についての確認をする。	・前時に課題を出しておく。	
展開 I 40分	② 現金以外の支払方法の特徴について話し合い、発表する。 ・課題について班毎に意見をまとめる。 ・クレジットカードの上手な利用方法を考える。	・「店舗販売と無店舗販売」について確認させる。 ・クレジットカードによる商品購入の仕組み(三者間契約)を理解させ、利用時の注意点を考えさせる。	・三者間契約について理解できる。(エ) [ワークシート]
	③ 分割払い(クレジットカード)の注意点を考える。 ・パソコンを使ってクレジットカードでの返済シミュレーションをする。(分割、リボ、ローンなど) ④ 消費者信用には「販売信用」と「消費者金融」があることを知る。	・金融機関による金銭の貸付けの他、キャッシングについて考えさせる。	・返済方法の違いによる支払い総額の違いを理解できる。 (イ)(ウ)(エ) [ワークシート]
展開 II 35分	<ゲストティーチャーによる講義> 弁護士等 ・多重債務による厳しい取り立てや債務整理 ・連帯保証人とはどんなものか。 ・自己破産のメリットとデメリット など	・無計画に利用した場合に陥る多重債務の現状を知り、その対処法と陥らないための注意点を理解させる。	・多重債務の現状を知り、対処方法などを理解できる。(ア)(エ) [ワークシート]
まとめ 15分	⑤ 「考えて買うことの大切さ」をまとめ、発表する。	・無理のない購入計画か、品質や安全性が保証されているか理解させる。 ・ワークシートに従って話し合いをさせ、項目に沿って代表者に発表させる。	・考えて買うことの大切さが理解できる。 (イ)(ウ)(エ) [授業観察] [ワークシート]

6 本時の振り返り

(1) 現代の消費生活の現状と課題を認識させ、消費者として正しく判断できるようにすることを目的に、個別に事前課題を配布し、授業準備を行った。学習目標をはっきり提示し、事前課題で基礎知識をもたせた上で班別発表学習に取り組ませたため、生徒の意見交換が活発になり、まとめる作業の効率もあがった。班の中での役割分担もはっきりさせて活動することができた。また、発表は課題内容を正確に捉え、時間内に簡潔に行うことができた。学習目標をしっかり提示して事前課題を与えることで、授業時間内に効率的な発表を行うことができ、プレゼンテーション能力が高まった。

(2) 発表学習を多く取り入れた結果、生徒はその都度、役割分担を考え、発表者を交代したり、発表方法を変化させたりするなど工夫を凝らした。また、他者の意見を聞き、知識を共有することで、消費者として適切な判断ができる材料を多くもつことができたと考える。

(3) 実践事例Ⅲ

科目名	家庭基礎	学年	2 学年
-----	------	----	------

1 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

単元名：親として共に育つ（ア）社会における子育ての環境を理解しよう

教科書：「家庭基礎 自立・共生・創造」東京書籍

副教材：「最新 生活ハンドブック 資料&成分表」第一学習社

2 単元（題材）の指導目標

- ・子供との触れ合いから学ぶ・・・子供の玩具「ことばカード」の製作（被服製作）
- ・親になるということを理解させる。
- ・子供の成長・発達を理解する。
- ・子供を守る社会の責任を理解する。
- ・話し合いを通して、考えをまとめ発表する。

3 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 基準	①乳幼児に関心を持ち、意欲をもって主体的に学習活動に取り組もうとしている。	①幼児の生活体験から作品を表現している。 ②乳幼児のいる生活について、課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	①被服製作の基本的な事項を身に付けている。 ②乳幼児の生活について、親として必要な基礎的・基本的な技術・知識を身に付けている。	①親になること、乳幼児を育てることについて理解し、男女が協力して、子供を安全に愛情をもって育てるために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 単元（題材）の指導計画（15時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)	
5	1	・玩具製作の案を考える。	・言葉の決定を行う。	アー① イー①
	4	・「ことばカード」の製作を行う。	・被服製作の基本を理解する。	ウー① [作品]
2	2	・親になるということを考える。	・絵本を朗読する。 ・VTR「赤ちゃんと共に育てる」を視聴する。 ・写真集「おなかの赤ちゃん」を見る。 ・胎児の発達を理解する。 ・母子健康手帳を理解する。	アー① イー② ウー② エー① [観察]
2	2 (本時)	・様々な子育てについて理解する。	・男女で育てることを理解する。 ・子育て支援について理解する。	アー① イー② ウー② エー① [発表] [ワークシート]
4	4	・子供の育つ力を理解する。	・年齢別の発達について理解し、適切な育児について考える。	アー① イー② ウー② エー① [ワークシート]
2	2	・健やかに育つ環境づくりについて理解する。 ・子供との触れ合いから子供を理解する。	・子供を取り巻く環境を知り、社会の一員としての存在を理解する。	アー① イー② ウー② エー① [観察] [発表] [ワークシート]

5 本時（全15時間中の7、8時間目）

(1) 本時の目標

- ア 子供を育てること、親になるということについて考える。
- イ コミュニケーション能力を生かして情報を取り入れる。
- ウ 子育て支援について調べて発表をし、自分達が社会の中の一員であることを理解する。

(2) 本時の展開 (2時間)

経過	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の朗読 本時の目標の確認 子供の頃の思い出を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を準備する。 ワークシートを配布する。 印象深い思い出を挙げさせる。 (好きだった歌、遊び、親との思い出) 10年後、15年後の自分を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児に内容がイメージできるよう朗読を行うことができたか。 (ウ) [発表] 本時の目標を理解しているか。 (ア)
展開 (1)	35分	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーの紹介 講義「パパを楽しもう」 話を聞いて、印象に残った内容を、感想と共に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 世の中の状況を把握、理解を深めさせる。 話の内容をよく聞き、印象に残った事項を書き留めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の新しい動向について理解できたか。(エ) 学んだことを自分の考えとあわせてまとめ、相手に伝えることができたか。(イ、エ)
	5分	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 代表生徒：お礼の言葉 		
展開 (2)	5分	<ul style="list-style-type: none"> 6限の目標の確認 各種届出書、マークについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 婚姻届、出生届を用意する。 マタニティマークを用意する。 	
	40分	<ul style="list-style-type: none"> 法律の制定、法律の改定について理解する。 子育てしやすい街を考える。 地域の子育て支援について調べてまとめる。 発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行う。 発表の方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資料が準備できているか。 (ア) 要点をわかりやすくまとめることができていないか。(イ、ウ) 子供のいる生活を理解しているか。(エ) 他の班の発表を真剣に聴き、評価できるか。(ア、イ、ウ)
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> 課題をまとめる。 次週の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表について、講評を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児との関わり方を理解し、日常の中で生かそうとしているか。 (ア、エ) (ワークシート)

6 本時の振り返り

(1) 言語活動を充実させるために、幼児の年齢に適する絵本を選書し、毎時間最初に2人ずつ絵本の朗読を行うことを継続してきた。生徒は、保育を学ぶ際、多くの種類の絵本と出会うことによって、幼かった頃の記憶がよみがえるとともに、成長した現在の自分を意識し、さらに、将来、自分が親になった姿を想像するまでに至った。また、大勢の人に向けて読んで伝えるためには、情景のイメージが描けるように読み方を工夫するなど、読解力も求められることが理解できた。絵本の朗読は、2月の保育体験活動のための実技演習としての位置付けでもある。

(2) 2010年6月、育児・介護休業法の改正に伴い、ワークライフバランスが重視され、社会の動き、企業の取り組みと家庭生活に大きな変化が見られようになってきた。その様子をゲストティーチャーによる「パパを楽しもう：育児は楽しい権利」という話から学んだ。このゲストティーチャーの話は、生徒が今後の生き方や将来の自分のライフデザインを考えるうえで大変参考になった。

以上のことを踏まえ、また、保育体験活動とあわせて、乳幼児を取り巻く状況を理解するとともに、地域ごとの特色を調べて発表したことにより子育てを身近な問題として考えるようになり、子育てするうえで、より住みやすい街はどういう街かを考えるようになった。乳幼児のために高校生ができることはないかという課題意識をもって学びを進めていくことが、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動などの成果につながっていくであろうと実感した。

(4) 実践事例Ⅳ

科目名	家庭総合	学年	3 学年
-----	------	----	------

1 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

単元名：快適に住む 家族と住まい

教科書：「家庭総合 自立・共生・創造」東京書籍

2 単元（題材）の指導目標

- ・家族構成やライフステージの変化と住要求の関係性について理解する。
- ・より良い住空間や住生活について考える。
- ・ライフスタイルや価値観に応じて、適切な住居を主体的に選択できる。

3 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元 の 評価 規準	①家族構成、ライフステージ、生活に関わる価値観等に応じた住空間の計画について検討しようとしている。 ②すべての人が安心して住める住環境づくりについて関心をもち、自分にできることを考えようとしている。	①想定した家族や住居を基に住居の機能や住空間と家族の暮らし方などについて考えている。 ②ライフステージに応じた住空間をデザインし、発表することができる。	①家族構成などに応じた住空間の計画について考え、他者にわかるように示すことができる。 ②平面図を読み取り、パソコンを使ってデザインすることができる。	①生活行為と住空間との関わり、動作に必要な広さ、家具の配置や動線などについて理解している。 ②安全で快適な住生活を創造するための知識を身に付け、環境にも配慮した住生活について理解している。

4 単元（題材）の指導計画（6時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
1	・住まいの機能を考える。 ・ライフステージによる住まい方を考える。	・住要求から住まいの機能を考える。 ・家族の変化と住まいの変化をまとめる。	ア①、イ①、ウ① [ワークシート] [観察]
2 ・ 3	・ライフスタイルやライフステージに応じた住まいを設計する。	・住宅間取作成ソフトを使用して、ライフスタイルに応じた住まいを設計する。	ア①、ウ①②、エ① [ワークシート] [観察]
4	・発表の準備をする。	・発表原稿を作成する。 ・資料を確認し発表の練習をする。	イ② [観察] [ワークシート]
5 ・ 6 (本時)	・発表する。	・一人3分程度で発表をする。 ・発表を聞きながら評価する。 ・ワークシートをまとめる。	ア①②、イ①②、ウ①、エ② [発表] [観察] [ワークシート] [評価表]

5 本時（全6時間中の5、6時間目）

(1) 本時の目標

ア ライフスタイルやライフステージに応じた住まいをデザインすることができる。

イ わかりやすく他の人に伝える方法を考えて発表できる。

ウ 発表学習を通して、家族構成やライフステージの変化と住要求の関係性について理解する。

(2) 本時の展開

過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	10	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標の確認 ・本時の予定について確認をする。 ・ICT機器の使い方について確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布する。 ・発表の流れと評価方法の資料を提示しながら説明をする。 ・パソコンの準備を指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標について理解している。 (イ) [ワークシート]
展開	60	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を行う。 一人3分程度で発表する。 ① テーマ ② 家族構成 ③ ライフスタイル ④ ライフステージによる住要求 ⑤ ライフステージや住要求を満たすために工夫した点 ⑥ 設計をして気付いたこと、感想 	<ul style="list-style-type: none"> ・制限時間を守るように指導する。 ・評価表、コメント表を記入しながら発表を聞くように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要点をまとめた発表ができる。 [発表] [観察] ・本時の目標にあった発表の内容である。 (イ、ウ) [発表] [観察]
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いた感想をまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて、適切な評価ができる。 (ア) [評価表]
まとめ	10	<ul style="list-style-type: none"> ・講評を聞く。 ・全体のまとめをする。 ・評価表を記入する。 ・次週の学習内容を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発表内容について講評を行う。 ・学習の成果と感想についてワークシートに記入するよう指示する。 ・次週の学習内容を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成やライフステージの変化と住要求の関係性について理解している。 (ア、エ) [ワークシート]

6 本時の振り返り

(1) ライフステージによる住まい方と住要求を考え、個別に設定した家族構成やライフスタイルに応じた住居をデザインさせた。対象生徒は一学期初めに単元「自分の人生をつくる」において、人生すごろくを作成し、ライフステージごとの生活課題について考察したこともあり、住要求についても将来の展望を見据えながら考えさせることができた。

(2) ワークシートを工夫して、発表項目を詳細に記入させることにより、普段人前で話すことが苦手な生徒もスムーズに発表することができた。また、評価表についても具体的に観点を示すことで、他者の発表を集中して聞く姿勢が見られ、適切な評価につながった。

(3) パソコンソフトを使用して住居の間取りをデザインさせることで、短時間で間取りを作成することができ、クリックひとつで平面図から立面図や鳥瞰図へと変化するので、住空間をイメージしやすく、生徒の興味・関心を引き出すことができた。また、壁や床の色も選択することができるので、快適な部屋をつくるための配色に関する学習にも発展させることができた。

VI 研究の成果

家庭科における「確かな学力」の向上に向けて、今回研究校では「主体的に行動するための思考力・判断力・表現力」を身に付けさせるため、発表学習を中心とした授業展開を行った。

授業実践においては、日常生活での実践的・体験的な経験が乏しい生徒が増えている中、自らの課題が設定できるよう、生徒に事前課題を与えた。課題に取り組む中で、生徒は自らの生活を振り返り、客観的に見つめ直す傾向がみられた。生徒は自らの生活を客観的に捉え、他者の意見を聞きながら自らの生活の問題点やより良く生活するための方策を深く考えて、発表学習に取り組んでいった。

発表学習においては、評価表を工夫することにより、生徒がその単元の目標を正確に把握し、目標に添った発表内容となるよう努力する様子がみられた。また、学習に取り組む最初の段階で「学習の目標」と「評価の観点」を生徒に示し、学習活動を展開することによって、発表がよりわかりやすく他者に伝わるものとなった。さらに、相互評価を行うことにより、他者の発表を集中して聞き、適切な評価を行うことができた。

体験的学習を通して感じたことを表現させる活動については、回数を重ねることによって、発表が、より目標や観点を考慮し、他者に伝えることを意識した簡潔でわかりやすいものへと変化していった。体験活動と発表学習を意図的に組み合わせることによって、言語活動が活発になり、様々な言葉を用いて考察、探求する力や他者との協働的な関係を築く力を高めることができた。

VII 今後の課題

家庭基礎や家庭総合を3単元に減単して行うという学校が増える中、家庭科教育の充実を考えると、授業内容や指導方法に工夫が求められる。学習目標を達成できる授業を展開するためには、その単元の学習目標を生徒にはっきり提示し、「何を学習させたいか」「何を身に付けさせたいか」を生徒に理解させることが不可欠であり、学習目標をはっきりさせるためにはワークシート等を工夫し、評価表にはっきり評価の観点を明示することが重要である。これらを実践するためには、効率の良い授業計画を再考する必要がある。教える側の発想転換や、ICTや教材コンテンツの活用も大切だと考える。学習したことを単元ごとに区切るのではなく、保育体験活動に関連させて被服製作を行うなど、単元での学習内容を生かした指導計画の工夫も必要である。

地域交流や課題解決学習は、「ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動」が中心となっている。「学校家庭クラブ活動」は、自らの課題を認識することで、それが家族や地域との連携につながってくる。保育での絵本製作活動が絵本の読み聞かせ活動に発展していったり、自分や家族の食生活が地域と深い関わりがあるということに気付いたりする。

今回の研究では、学習したことを地域の課題解決に向けて取り組む実践にまで深めることはできなかった。子供や高齢者など様々な人々と触れ合う体験学習において、他者との関わりを深める言語活動を充実させ、習得した知識や技術を活用し、地域の中で課題解決を図ることができる実践力を高める授業づくりが今後の課題であり、次年度以降の研究にその課題を託すこととする。

平成22年度 教育研究員名簿

高等学校・家庭

学校名	課程	職名	氏名
都立江北高等学校	全日制	主任教諭	村岡 千賀子
都立南葛飾高等学校	定時制	教諭	藤 森 幸
都立篠崎高等学校	全日制	主任教諭	浦島 真由美
都立南平高等学校	全日制	主任教諭	◎ 富 樫 和 恵

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 金澤 正美

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
高等学校 家庭部会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451